

世界の CEO に聞く

インマルサットCEO アンドリュー・スカワティ会長



新しいインマルサット第4世代衛星の打上げ成功おめでとうございます。この新しい衛星と、その機能につきご説明願えますでしょうか。

お祝いの言葉ありがとうございます。今回のインマルサット第4世代衛星の打上げはインマルサットの歴史の中でも最も重要なイベントの1つでした。これは2つのカギとなる理由、衛星そのものが技術的に素晴らしいものであることと、この衛星が提供する移動衛星サービスが先進的であることから明らかです。

インマルサット第4世代衛星はこれまで打上げられた商業衛星の中でも最大級かつ最も高機能な衛星の1つであり、移動中の端末に対して最大約500kbpsのデータ伝送を提供することが可能です。衛星の本体はロンドンのダブルデッカーとして有名な2階建てバスの大きさ、ほぼ6トンの重量、そして衛星電池パネルは展開すると45mにわたる長さとなります。パラボラアンテナの反射鏡面は、衛星打上げ時には本体側面に収容されていますが、軌道面上では面積80平方メートルの大きさに展開されます。ですからこの衛星は物理的な大きさからも印象的です。

しかしながらこの衛星の特長は単に大きさだけではありません。第4世代衛星には通信衛星に搭載される最も先進的な技術がいくつか用いられています。228の狭域スポットビームはサービス需要の変動に対応してダイナミックにビーム構成を調整できるようになっています。第4世代衛星はそれぞれ19の広域ビームを持ち、これらの衛星により海事、航空、そして緊急通信サービスといった既存のインマルサットサービスをグローバルに継続的に提供します。衛星内で用いられている通信技術は第3世代携帯電話の標準を基本としており、地上でもようやく展開されつつあるのと同じ最先端の技術となっています。

第4世代衛星は先代のインマルサット第3世代衛星と比べて60倍の電力と16倍の容量を備えています。このため1機の第4世代衛星は現在静止軌道に配備されているインマルサット第3世代衛星5機と、インマルサット第2世代衛星4機の合計よりもパワフルです。

この新世代衛星はまさに、電力、容量と能力の全ての面で大きな前進を遂げています。そしてこの技術の進歩により、とてもエキサイティングな新サービスを提供できるようになりました。その最も特徴的なものはグローバルなDSLサービスのような、つまりBGAN(Broadband Global Area Network)です。

インマルサットは海事、航空、そして可搬型と多様な国際移動体衛星通信サービスを提供しておられます。また当初国際機関として発足し、現在では民間企業に変わっておられます。なぜこのように変わったのか、そしてこの変革のもとどのようにマーケットを拡充してきたのか、読者のより良い理解のためにインマルサットの歴史をご紹介しますでしょうか。

インマルサットは1979年に海事通信、特に遭難安全通信を提供するための国際政府間機構(IGO)として発足しました。設立協定では商業ベースでの運用と、出資に応じた配当の実施が定められていました。そしてすぐに、海事通信で培った技術を活用し、陸上や航空サービスも提供することが商業的に意味を成すようになりました。これら3つのマーケット全てのサービスを今日でも続けております。

インマルサットのビジネス文化の論理的な拡張は、組織の民営化につながりました。1999年にわれわれは民営化の移行を完了した、最初のIGOとなりました。我々は株主への会社価値を高めるための努力を続け、2003年12月末にプライベート・エクイティ・ファームのApax PartnersとPermiraからの資金受入を完了しました。我々は民営化以来、株式市況のモニタを続け、今年の6月がまさにロンドン証券取引所への上場を行う正しい時であると考えました。この判断が正しく、インマルサットの新規株式公開が成功裏に行われたことは嬉しい限りです。

インマルサットの歴史が示しているのは、インマルサットが常に競争環境下でのビジネスソリューションの提供に焦点を当ててきていることです。我々は、我々に課せられている公共サービス提供の義務を重要に受け止めております。我々はいまでも全世界的な海上遭難・安全システム(GMDSS:Global Maritime Distress & Safety System)を提供している唯一の事業者です。一方で、我々は常に我々の商業サービスが実際のビジネスニーズを支え、また我々のサービスが展開されている市場セクターに対して実質的な価値を提供するよう努めております。このアプローチこそインマルサットの評判を高め、移動衛星サービスの業界を大きくするものと信じております。

インマルサットのサービスは初期のテレックス・電話主体の海事サービスから、ニュース番組や高速インターネットアクセスのための高速データサービスに成長してきていると伺います。インマルサットがどのようにして、このような市場ニーズの変化に応えてきたかお教え下さい。

インマルサットは移動衛星通信セクターの中で最初にデータ通信の重要性を認識した会社です。インマルサット第4世代衛星プログラムはその開発が8年前に始まっておりますが、これは商業や公共用途の国際的なデータ通信量が増大するとの見通しに基づいたものとなっています。我々が今日運用しているブロードバンド環境に備えることができたのはこの見通しによるものです。今年後半にサービス開始が予定されている BGAN のように新しいサービスの開発も、このような需要に応えることができるでしょう。

さらに加えるならば、我々に力を与えている鍵の一つは国際的なディストリビューションネットワークにあります。我々には31のディストリビューションパートナーがおり、日本の KDDI もこの強力なパートナーの一つです。さらに我々には440以上のサービスプロバイダがおります。我々はこれら組織と密接に連携し、彼等のユーザのニーズに応えるためのサービス開発に努めております。我々のパートナーはそれぞれサービスを提供するセクターの専門家であり、我々は彼等からの言葉を注意深く聞いています。そしてこれは我々が、ユーザが求めているサービスを正しく提供していることを確認するために役立っています。

最近では、異なった衛星通信分野、例えば地域衛星や航空衛星通信サービスなどで広帯域衛星通信の新サービスが提供されるようになってきております。インマルサットはこのようなライバルに対してどのように競争し、あるいは協調して行くのでしょうか。

インマルサットは、音声や低速データを扱う携帯サービス提供者から高速データで我々と競合する VSAT オペレータまで、これまで何年間も競争に直面してきております。このため競争は我々にとって新しいことではなく、我々は、確立したオペレータから新規参入者までを相手に、我々自身が成功裏に競争し、強い立場を維持できるものと信じております。我々は既に打ち上げられた、あるいはこれから打ち上げられる新しい衛星群、今年度後半に開始される先駆的な新サービス、そして大きく確立されたディストリビューションネットワークを持っています。これら全ての要素により、インマルサットが移動衛星サービス市場において競争力を持ち続けることができるとの大きな自信を私に与えてくれます。実際、新しい衛星により我々は音声と高速データ通信の両方のサービスをよりコスト効率良く提供することができます。また新しい衛星は、我々がかつてはできなかったような新しい市場に参入し、収入増加の機会を探すことを可能とじてくれています。

新しい第4世代衛星を含め、インマルサットのサービス進化シナリオについてご説明下さい。

最初のインマルサット第4世代衛星は3月に打ち上げられ、インド洋上に配備され、現在では完全な運用モードに入っています。この衛星はインド洋地域において全てのインマルサットサービスを提供しており、これが早くも恩恵をもたらしています。例えば、スポットビームを用いて音声、FAXそしてデータアクセスを提供する海事サービス、例えば Fleet F55、Fleet F33、ミニ M、そして Fleet F77 の 128kbps 等は、これらのサービス利用が可能となるエリアが大幅に拡大されており、これら既存サービスもサービスエリアの拡大により発展する機会を得ていると信じております。



R-BGAN は 2002 年に他の衛星のリース容量を用いて開始されておりますが、そのインマルサット第4世代衛星へのサービス移行により、同様にサービスエリアが大幅に拡大しています。このサービスは今ではアフリカ、ヨーロッパ、アジアのほとんどおよび西オーストラリア各地域において利用可能となっております。2機目のインマルサット第4世代衛星が打ち上げられると、このサービスは南北アメリカにも提供されるようになります。

これまで述べてきましたように、インマルサット第4世代衛星の先進技術は新しいサービス、BGAN の提供開始を可能にしました。これは衛星の照射領域に入っている全ての人に第3世代携帯電話型のサービスを提供するものです。2機のインマルサット第4世代衛星が運用されるようになると、全世界人口の98%もの人々がカバーされることとなります。このサービスは小型軽量のモバイル通信装置に対して約 500kbps の伝送速度を持つデータ通信を提供します。BGAN は移動衛星サービスとして、これまで実現できなかったレベルの接続性能を提供できるのです。

インマルサット第4世代衛星の電力と能力が、将来の新しいサービスの提供も可能にしてくれます。現在、インマルサット第3世代衛星を用いたサービス収入の34%は、1990年代に衛星が打ち上げられた頃には考えられなかったサービスからのものとなっております。これと同様に第4世代衛

星の能力も、我々に新しいサービスの提供を可能としてくれるものと信じております。

国際衛星通信を運用されているリーダの視点から、特に日本でこのSJRをご覧になっている読者に対して、宇宙・衛星ビジネスへのご意見、ご期待、あるいはご助言等、お聞かせ下さい。

現在は宇宙関連ビジネスに従事するものにとってエキサイティングな時代だと思います。衛星通信ビジネスでは、1980年に千台未満だった移動機の数も、2004年までに百万台を超えるに至っています。また我々が何をしているのか、衛星通信がどのような可能性を提供できるのかについて、世界中の人々の興味が増してきています。電子技術の小型化、デバイス中の無線技術や電力管理技術における技術革新が、衛星経由アプリケーションにエキサイティングな新しい世界を広げようとしています。国際的には、宇宙ベースのアプリケーションや探索によって提供されるメリットに対して、改めて興味を示されてきているように思います。インマルサットがこのような役割を果たすことが出来るととても嬉しく思います。

最後に、仕事を離れた時の過ごし方をお聞かせ下さい。

ロンドンでの生活の一つの利点は、世界有数の劇場に行けることです。私は家族と一緒にこの特権をできるだけ活用したいと思っています。また将来の希望として、私は船に乗るのが好きなので、仕事とこの趣味をもっと組み合わせることができればと考えています。もちろん海の上ではインマルサットサービスを使いたいと思います。

お忙しいところお時間を頂き、またインタビューにお答え頂き、ありがとうございました。 ■

インタビュー、和訳：SJR 編集担当 野原 光夫